

難波田城だより

—難波田城公園・難波田城資料館ニュース—

平成 24 年 3 月 1 日発行
編集・発行/富士見市立難波田城資料館

第 51 号

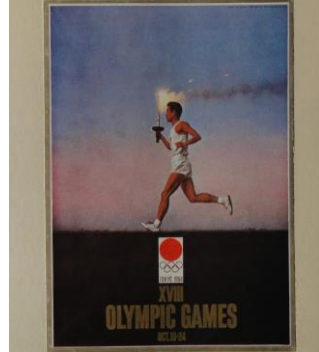
NEWS from NANBATAJYO

東京オリンピックの思い出～支えた一人として～

市民学芸員 小森 和雄



記念貨幣百円（左）
千円（右上・下）



ポスター



記念章（左）と
記念の壺（右上）
壺の底拓本（右下）



3 月 10 日から当館の企画展として、オリンピックで話題となる世界一の技術「辻谷政久氏の砲丸」をテーマとした展示が始まる。私もオリンピック繋がり、当時頂いた証拠品の「記念章」と「壺」に加えて自作の記録帳を展示させて頂く予定である。

開会式のあった昭和 39 年(1964)10 月 10 日（土）は快晴だった。東京国立競技場の上空に飛来した 5 機のジェット機は、5 色の煙で五輪マークを見事に描いた。私は新大久保にあったダンス教習所の窓から一人見上げていたことを鮮明に覚えている（当時、労組や学生主催のダンスパーティーが盛んだった）。

東京にオリンピックが決まると、競技場の整備もさることながら、選手や多くの観客の移動が課題となった。このため、土地問題の少ない河川の上に高速道路が決まり、駒沢競技場と国立競技場や都心部を結ぶ「青山通り」、羽田・駒沢・北区を結ぶ「環状 7 号線」を始めとするオリンピック関連道路の整備が急がれた。私は、この道路整備事業の要員として、その 3 年前に東京都に採用された。初出勤は 4 月 1 日（土）で、上司の「この職場は半ドンではないから、そのつもりで」との言葉は耳に残っている。急ごしらえの事務所は、道路と道路が立体交差している橋の下をブロックで囲ったもので、太陽は全く当たらず、夏暑く冬寒い職場だった（当時、エアコンはありません）。

オリンピック開催を記念して、百円・千円の記念貨幣が発行された。私は職場で夜を明かし、近くの郵便局で早朝から並び、運よく両貨幣をゲットできた。しかし、フィーバーぶりは凄く、入手できな

った人が、各金融機関の割り当て枚数と、窓口での交換枚数とに違いがあるのではと大騒ぎして、大きく報道された場所もあった。

オリンピックを盛り上げるため、全国を聖火が廻るという「聖火リレー」が行なわれた。私の職場から正ランナーが選ばれ（正・副ランナーがおり、正ランナーは着火・副ランナーは未着火で走る）町田市内を走ることになり、私が応援団長となって数人の仲間を連れて町田市と川崎市境界の峠まで出かけた。それから 30 数年後、町田市内の事務所に赴任し、大雪で交通止めにした唯一の箇所がその峠だった。

職場が代々木選手村に近かったため、写真を撮りに出かけた。入口付近で運よく外国の選手を捕まえ、サインを貰ったり、一緒に写真を撮っている人たちがいた。選手村はその後、研修センターとなったため、職場の研修で何度も行った。また、代々木公園としても整備され、近くに NHK 放送センターや明治神宮もあることから、今でも行くことがある。

丹下健三氏設計の特徴的な代々木体育館の水泳競技場は、冬期はアイススケート場になった。ユースホステル世界大会の会場にもなり、世界の参加者と阿波踊りを踊った思い出の場所である。

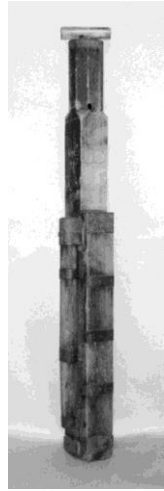
オリンピック関連街路の完成を記念して東京都は、地主等の事業協力者へ記念章を、事業従事者へは五輪マーク入りの記念品を配った。

華々しいオリンピックも、色々な立場からの大勢の支えがあって成り立っているのだということを再認識して頂ければ幸いである。

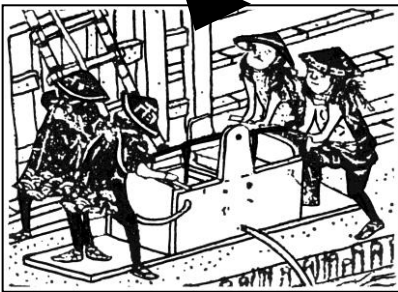
こんなお宝がありました 資料館編

「竜吐水」（りゅうどすい）

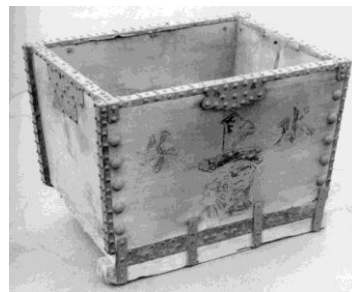
江戸時代の文政五年（一八二二年）に大坂で版行された「農具便利論」という書物は「竜吐水」を農業用揚水器、あるいは消火器具としても利用できるオランダが起源の「ブランドスポイト」という名称で紹介しています。竜吐水の仕組みは、スポイトの原理そのもので、塗油した布製のホースに水を吸い上げ反対側から勢いよく放水している挿絵が添えられています。当館には写真下のような竜吐水の箱の部分（水鉄砲）が収蔵されています。残念ながら主要部が失われ箱だけになっていますが、オランダ伝来の揚水器が近代的な消防器具が導入されるまで活用されたかと考えるとこの箱も貴重な資料といえます。この他に、水鉄砲のような筒型の竜吐水も収蔵しています。



竜吐水（水鉄砲）



竜吐水 『農具便利論』挿絵



竜吐水の桶部分
（水子上組でつかわれていた）

おもしろ・なつかし体験 ③⑤

消防訓練

このコーナーは、難波田城公園での体験事業やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

1月26日は文化財防火デーであることをご存じでしょうか。昭和24年の法隆寺金堂の火災を契機に、文化財保護委員会と消防庁が制定しました。この日に合わせて各所で訓練が行われています。

難波田城では1月21日（日）、旧金子家住宅のカマド付近から出火したと想定の下消防訓練を行いました。

旧金子家で火災発生。「火事だー！」の叫び声に、火災報知器が一斉に鳴り響きました。園内放送は、旧金子家住宅より火災発生の知らせと避難の呼びかけをしていました。消火班は近くの消火器を持ち込み消火

活動を、避難誘導班は家の中にいた来園者を売店前に誘導しました。

今にも雪になりそうな曇り空のもと、皆、ふるえながらの消火訓練でしたが、参加者全員に緊張感の走る訓練でした。

避難訓練後に行われた消火器の使用体験には、小学生の来園者たちも参加。体で覚える良い機会になったのではないのでしょうか。私自身は、消火器がどこにあるのかすら注意していなかったことに反省しました。



消火器の体験中

人の創った道具★人の使った道具

夏を涼しく 冬を暖かく

昨年8月から本年8月まで開催している穀蔵展
示『夏を涼しく冬を暖かく』の内容を紹介します。

はじめに

1922年(大正11)の関東大震災は、東京で電化製品が普及し始めるきっかけになり、1970年代のオイルショックは、石油以外のエネルギーへの移行を促進しました。大きな災害はエネルギー源の安定性を見直すきっかけになります。電気を豊富に使う以前、暑さ寒さをどうしのいなか振り返りました。

住いの工夫

夏の蒸し暑さを建物の工夫でやりすごしたのが日本の古民家です。主な特徴をあげると、

- ①. ひさしを深くして直射日光を入れない
 - ②. 開け外しできる障子やふすまによる間仕切り
 - ③. イロリやカマドの熱気を逃す高い屋根
 - ④. 温度が安定した地中につながる土間
 - ⑤. 木材や土壁、カヤなど熱を伝えにくい素材
- ①～③は夏の暑さを防ぐことに有効ですが、冬の寒さを防ぐという面では逆効果です。④⑤は夏冬とも屋内の温度を安定させる効果があります。

炭火の暖房具

火鉢は、部屋の空気を暖めるほどの火力はなく、赤外線を出して、まわりの人を暖める「放射熱」の暖房です。炭火は一酸化炭素を発生させますが、密閉が弱い昔の家では、中毒のおそれはほとんどありませんでした。行火は、小形の火鉢におおいをつけたものです。行火にやぐらとふとんを組合わせたものが古来の(旧式の)炬燵です。

「三種の神器」とともに

1960年代、「三種の神器」(テレビ・冷蔵庫・洗濯機)と並んで、扇風機と「やぐら付き電気こたつ」が家庭に普及しました。それらより少し遅れて石油ストーブも普及しました。ストーブは部屋の空気全体を暖め、活動しやすくなりましたが、戦後の住宅はすきまが減ったので、意識的な換気が必要になりました。これらの冷暖房具が、夏冬の居間の風景を変えました。また、電気冷蔵庫の普及により、夏の日常に楽しみが増えました。清涼飲料水です。スーパーマーケットが広まる以前、清涼飲料水は酒屋からびん入りで届けられ、空きびんは回収されました。展示したケースと空きびんは、およそ30年前の状態で個人宅に保管されていました。当時の流通の実態が凍結されています。

このコーナーでは、当資料館所蔵・展示資料を紹介いたします。今では使われなくなった道具からわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。



旧金子家住宅



左：炭火用炬燵 右：ネココタツ（行火の一種）



初期の電気こたつ



1980年頃のビールケースと空きびん

春のイベント予定

平成 24 年春季企画展 世界一の砲丸職人

～辻谷政久氏のものづくり～

3月10日(土)～8月19日(日)

会 場／資料館特別展示室

アトランタオリンピックから3大会連続で、男子砲丸投げの金・銀・銅メダルを独占した砲丸は、市内在住の辻谷政久氏が作りました。今も現役の辻谷氏の「ものづくり」に迫ります。

オリンピックの選手が、こぞって選んだという砲丸を作った職人のワザを見てみましょう。



企画展関連講演会

「砲丸づくりと私の人生」

講 師 辻谷政久氏

(砲丸職人)

会 場 資料館講座室

日 時 3月17日(土)

午後1時30分～3時

参加費 無料

定 員 50人(申込順)

市政40周年記念事業

古民家結婚式の

新郎新婦役募集中

11月24日(土)に、古民家で「ちょっと昔のご祝儀」を再現します。新郎新婦役として「富士見市にゆかりのある」本当のカップルを募集します。詳しくは応募要項をご覧ください。応募〆切は3月31日(土)です。

ゴールデンウィーク(4月28日(土)～5月13日(日)) イベント案内

よろいを着てみよう、紙のかぶとづくり(有料)、コイノボリづくり、五右衛門風呂入浴体験(要水着・タオル)、その他、様々なイベントを行います。詳しくは、4月、5月のイベント案内をご覧ください。

難波田城公園まつり

日 時 6月3日(日) 午前10時～午後4時

※詳しい内容は、広報などでお知らせします。

花ごよみ

*ウメ(3月) *コブシ(4月)

*サクラ(4月) *フジ(4月)

*スイレン(5月) *ハナショウブ(5月)

*アジサイ(6月) *ハス(6月)

ちよっ蔵市

(難波田城公園活用推進協議会主催)

3月25日(日) 草もち

4月29日(日) かしわもち

※販売は午前11時から。売り切れ次第終了です。

<閉門時間変更のお知らせ>

4月から9月の間、公園の閉門時間は午後6時になります。資料館と古民家は午後5時までです。



なんばたじょう
難波田城
FUJIMI MUNICIPAL MUSEUM

編集・発行／富士見市立難波田城資料館

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1 TEL. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

富士見市役所公式ホームページ <http://www.city.fujimi.saitama.jp>

◆資料館休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土曜日・日曜日を除く)、年末年始 開館時間／午前9時～午後5時

◇公園休園日／なし 開園時間／午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月)